

河合卯之助 わはい 卯之助 陶藝家、隨筆家、俳人。明治二十一年三月二十日京都市東山區五條坂生れ、昭和四十四年一月十四日没（八八九―一九九）。

明治四十一年京都市立美術工藝學校卒、次いで四十四年京都市立繪畫專門學校とくぎょうを卒業。家業の手傳ひの傍らに中陸織の圖案を描き、祇園の小品堂で初個展。大正五年自刻木版畫集『伊羅深』出版。翌年東京で個展、また白種派と交友遊。十五年自刻石版『河合卯之助陶畫集』出版。翌年京都の西向白町の筆齋、向白齋と名附く。昭和八年押葉陶器の特許を得、十八年押葉中皿十一枚が皇室買上げとなりた。

めい 豫め隨筆を能くし、兼て俳句を能くした。隨筆集『雲邊陶話』（昭和十八年刊）、『おまどころろ』（昭和二十五年刊）。二十七年私家版雜誌『雲』創刊。『河合卯之助遺文』（河合紀綱、昭和五十八年三月）十四日用美社）は、前二著の『雲』誌の數篇を加へたもの。他は『河合卯之助の世界』（昭和五十七年刊）がある。

